

自然を 学ぶ

子育ては

ため息まじりの

黄金時代

静岡自然を学ぶ会代表

池上理恵さん



緑が似合うリビングで語る池上さん

麻機山に囲まれた静かな住宅街。白いフェンスで囲まれた庭に1羽のチャボが遊んでいます。物質的な豊かさにおぼれず、自然に目を向け学んでいる人たちがいます。そんなグループの代表池上さんのお宅を訪ね、お話を伺いました。

仲間との出会い

広がりのあるリビングには、壁一面に本がずらりと並んでいます。池上さんと子供さんの本がほとんどで、子育ての歴史が感じられます。息子さんが2歳の時、蛙やトカゲや虫などの生き物に興味を持って、飼いたいと言いつつ出し、図書館で本を借りたことが自然を学ぶきっかけでした。生き物について調べていくうちに生き物をかわいと感じるようになり、自分が自然を身近に感じるようになった

プロフィール

池上理恵（いけがみりえ）
神奈川県から静岡に来て24年。主婦という立場で、現在、18歳の息子さんと16歳の娘さんを育てながら科学に興味を持ち、1989年「静岡自然を学ぶ会」を作り代表を務める。1995年科学あそびの会「ミユウ」を友人5人とつくり、科学あそびの出前も行っている。

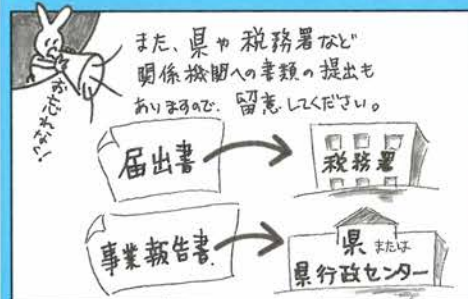
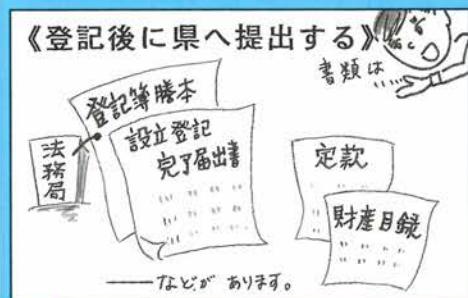
そうです。

その後、息子さんが5歳の時に『科学の本っておもしろい』という本（科学読物研究会編・連合出版）との出会いがありました。そこで紹介されていた「科学読物研究会」（東京）へ入会し、子供の科学の本について勉強しました。自分と同じように科学をおもしろいと感じ、楽しさを語り合える仲間との出会いは、一人の主婦が広い視野を持つことにつながり、深い喜びとなりました。

自然を学ぶということ

静岡でも同じように「科学の本を勉強しませんか」という声かけに集まったのは15名。「静岡自然を学ぶ会」が発足しました。好奇心旺盛なメンバーのやってみたいこと、例えば「安倍川の源流をつきとめたい」「野鳥を観察したい」「道ばたの草の名前を覚えたい」などの希望を実現していくうちに、身の回りのことをきちんと取り上げて、足元を豊かにしていこうという方向にみんなの気持ちが固まってきました。活動の内容はかなり専門的で、お茶がテーマなら、茶摘み・ウーロン茶作り・茶農家の話・東アジアのお茶などあらゆる角度から勉強しています。

がんばれN子さん④



手作りのおもちゃが並ぶ。科学あそびでの万華鏡 (中央) せみ笛 (右) ・くるくるまわるバレリーナ (左) など



チャボの「びよ」を愛おしそうに抱く池上さん

「すてき」のエッセンス

庭にいるチャボを卵からかえしたときの記録は今でも宝物です。そのとき池上さんは命の尊さと同時に、卵の殻は外からの衝撃に強いのに内側からはとても割れやすいこと、ひなのくちばしには卵歯というとげがあり、殻を割って出てきて、しばらくするとなくなってしまうことを知りました。自然には無駄がないということに感動したと言います。

そんな池上さんの自然を学ぶ豊かな心はどこからくるのでしょうか。それは「身の回りにはわくわくするようなおもしろいことがたくさんあります。知ることが嬉しい、精一杯生きていることを楽しみたいと思っています。物の豊かさを求めるのではなく、今あるものを最大限に楽しみたいですね」という言葉に同うことができます。「足元にあるものを見つけていろんな発見をする喜びは、子育てをする中で、子供に付き合ってこそ知った喜びです」と言っ笑う池上さんが、すてきと思わずにはいられないほど輝いていました。

本の紹介

NPO入門書
第2弾!!

▼NPOの今日と明日

日本NPOセンターが実施した「NPO塾・第3基礎講座」の記録に手を加えてまとめたもので、「NPO基礎講座」市民社会の創造のために(97年出版)の姉妹編。市民活動のなかでも、特に注目を集める6分野(福祉・環境・文化・国際交流・女性問題・まちづくり)の現状と今後の展望を各分野のネットワークの中枢に位置する

キーパーソンらがわかりやすく解説。
『NPO基礎講座2』市民活動の現在』

▼被災地女性たちの心の傷

阪神大震災の被災地で生活を続けている女性たちの声を集めた本。
時間とともに街は復興しつつあるが、人々の心の傷はまだ癒えていない。そんな被災地の女性たちの思いが伝わってくる一冊。
『女たちが語る阪神大震災』



『女たちが語る阪神大震災』

ウィメンズネット・こうべ

木馬書館

用語解説

知っておきたい最新の用語を集めて解説しました。

「ドメスティック・バイオレンス」

(domestic violence=DV)

「家庭内暴力」のことで、特に夫、パートナーなどによる女性への暴力を指します。「暴力を受けるのは自分が悪いから仕方がない」と自分を軽んじてしまう女性特有の問題を内在している場合が多く、問題を複雑にしています。暴力には、身体的暴力のほか、性的暴力や心理的苦痛を含みます。

「ナショナル・トラスト」

破壊されていく自然環境を住民が買い取りあるいは寄贈を受けて保存していく運動のことです。大きくわけて森林や湿原などの自然の保存と都市部の緑地を保存するタイプとがあり、現在、全国で約70カ所で開催されています。

「自助グループ」

(セルフ・ヘルプ・グループ)

メンバー共通の問題の克服をめざし、相互の協力関係をお互いに話し合い・相談など、自発的に運営されるグループのことです。本誌で登場したサポート・グループは同じ

趣旨で運営されるものと考えられます。

「特定非営利活動促進法(NPO法)」

特定非営利活動法人の設立に必要なことや役員に関すること、その後の運営に必要な報告・変更に関するなどを定めた法律です。さらに手続きなどを具体的に定めたものが特定非営利活動促進法施行条例(県条例)です。

「法人」

人は法律行為(契約など)を自分の名前で行っています。他に、株式会社などのように法律によって人格があるように考え(法人格)。会社の名前が法律行為ができるようにした「法人」があります。このたびのNPO法はこのような法人の制度をNPOに認めたものです。

読者の声

▼ファッションのページが新鮮

NPOの特集は、時宜に合った企画かと存じます。「こんなに変わった若者ファッション」は特に興味深く読みました。

▼NPOが分ってきました

NPOの名前だけ先行するなか、「ねっ

前号(No.33)を読まれた方からの意見が届いていますので、ここに紹介します。

とわあく」を読んで、ぼんやりしていたものが分かってきました。「ねっ」とわあく」で取り上げたことに意味があったのではないだろうか。中には本腰を入れて読まなければならぬ文章もありましたが、全体を見渡しては視覚的に楽しめました。

▼これから期待します

風船を使って、NPOとそれ以外のつながりなどを表現しているページが良かった。ファッションのページについては、その前後がNPO一色というのに対して、ちょっと唐突すぎているような気がしました。今後は女性総合センターの発行物という特性をいかして、NPOと男女共同参画社会との関わり方などを取り上げてほしいと思います。

編集後記

☆NPOって何だろう

NPO元年に当たるといってことでチャレンジしたテーマだった。なんとなくこかで「NPO」は「ねっ」とわあく」が啓蒙していくのだから気負ったところがあつて新聞や広報紙「NPO」なる文字を目にするのを越えられたと焦りを何回となく感じた。

「新社会機構を一般に知らせる」それはそれぞれの手段をもって様々な角度から取り上げ掘り下げてこそ正確に知らせることができると学んだ。

震災の傍観者となっていた自分を恥じると同時に、自分の中の使命感を再認識する機会となったことに感謝。

今後、この「ねっ」とわあく」が女性啓蒙だけでなく、男女平等の社会にあつて多くの「ひと」を(文字どおり)ネットワークするものであつてほしい。

☆

(静岡市 河合登代子)



河合登代子さん



杉山恵子さん



鈴木美津子さん



堀川美紀子さん

(静岡市 堀川美紀子)

「自分ができることは何だろう?」

NPOの取材をしながら考えた。「あつたらいいな」を表現していく活動に触れ、まず生活の中から見つけてみようと思った。「うれしいトレ」を使ってみよう。子どもたちと一緒にケナフを植えて育ててみよう。「かずのおけいこ」を使い回そうと呼びかけてみよう。一人ひとりのエンパワメントは、きっと大きな力になっていくことだろう。

静岡県デザインセンター
春色のロンド
小杉恵世さん

募集

募集期間

平成11年4月1日(木)～平成11年4月30日(金)県内在住の方ならどなたでもお気軽にお問い合わせください。

お問合せ

静岡県女性総合センター「あざれあ」
054-250-8107

募集

「ねっ」とわあく」を読んで
「意見、感想をおはがき、ファックス等でお寄せください。」

宛先 静岡県女性総合センター

「ねっ」とわあく」編集係
〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1
FAX 054-250-9060
Eメール azareaa@sizukakent.jp

募集

①

春のおすすめ講座ほか

あざれあカレッジ(2コース)
受講料無料・託児あり(要予約)
県民力レックス認定講座です
各コース定員30人(先着順受付)
えぼつく(基礎コース)

21世紀の女性と社会はどのような
様々な角度から考えていきます
平成11年6月～平成12年3月年間12日
原則隔週水曜日10:00～15:00

るねっさんず(実践コース)

21世紀を創るのはあなた
行動派のあなたに贈る実践講座
平成11年6月～平成12年3月年間19日
原則隔週火曜日10:00～16:00

ねっ」とわあく」レポーター募集

5人程度 託児あり(要予約)
取材等・本誌の発行に携わります
年間16日程度(取材日を除く)

原則隔週水曜日10:00～16:00

募集

②

「ねっ」とわあく」を読んで

「意見、感想をおはがき、ファックス等でお寄せください。」

宛先 静岡県女性総合センター

「ねっ」とわあく」編集係
〒422-8063 静岡市馬淵1丁目17-1
FAX 054-250-9060
Eメール azareaa@sizukakent.jp

編集にあたりご協力いただきました皆様へ、心から感謝申し上げます。〈編集員一同〉

企画・編集
河合登代子さん(静岡市)
杉山 恵子さん(浜松市)
鈴木美津子さん(藤枝市)
堀川美紀子さん(静岡市)
編集アドバイザー
太田 榮三さん(熱海市)

No.34

発行 平成11年3月
編集 静岡県女性総合センター
住所 〒422-8063
静岡市馬淵1丁目17-1
電話番号 054-250-8107



静岡県



80

古紙配合率80%再生紙を使用しています